

# 平成21・22年度 文部科学省 人権教育開発事業 人権教育研究のまとめ

周南市立秋月中学校

## 1 研究主題

「人と人とのかかわりの中で  
互いの違いやよさを認め合い、ともに高め合う生徒の育成」

## 2 研究主題設定の理由

本校は、平成17年度～19年度、文部科学省「確かな学力育成のための実践研究事業」の指定を受け、授業改善に取り組んできた。その中で、学力を育成するためには、教員側の授業内容の工夫や授業スキルの向上も大切であるが、その基盤に生徒の生活規律や落ち着いて（安心して）授業に臨める雰囲気（学習環境）があって、はじめてその効果を上げることができることを再確認した。また、「学力をつける」「心を育てる」「環境を整える」を学校重点目標とし、全教職員参画のもとに学校づくりを進めてきた。当時、生徒指導上の課題が表出したこともあり、まず、望ましい学習規律や集団規律の確立をめざし、「心を育てる」ことに重点をおいて取り組んだ。この取組にはかなりの成果があり、現在では、全体的にほぼ落ち着いた環境の中で授業が進められるようになってきた。

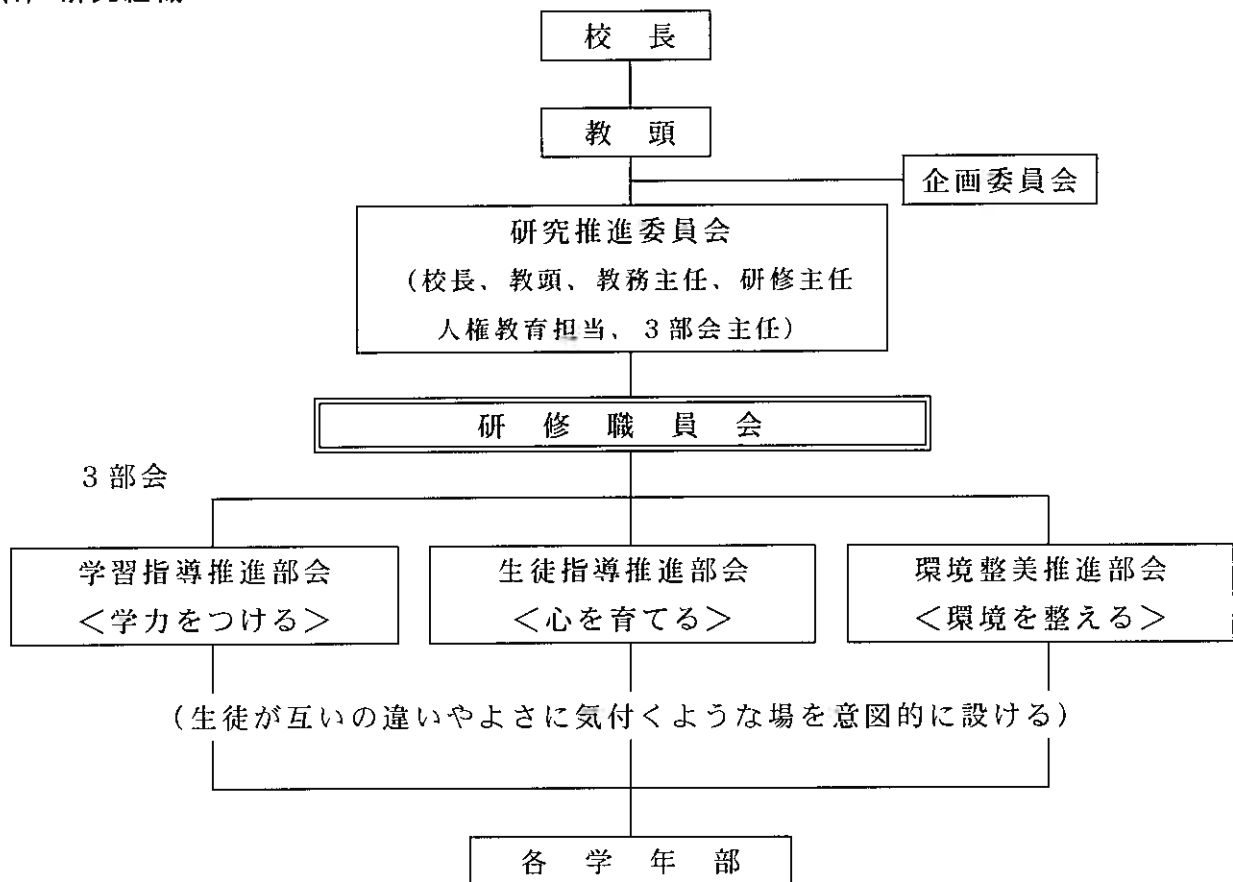
しかしながら、部分的に見てみると、自己中心的で思いやりの気持ちに欠ける言動をとる生徒も少なくない。表現力の未熟さもあるが、このような生徒のいる集団の雰囲気の中では、安心して自分を表現することができず、授業を通して互いに学び合い、高め合うといったことが難しいなどの課題がある。

そこで、学校の全教育活動について、人権尊重の意識を高めていくという視点から、よりよい人間関係づくりを基盤として人権教育を研究・推進していくことが大切と考えた。これは、教科等の学習を含めた本校の全教育活動で実践していくことである。本校の生徒のほとんどは、小学校から一緒に、互いのことをよく知っており、一見仲がよいように見えるが、逆に固定化した交友関係の中で、人間関係が希薄であり、心ない言動がトラブルに繋がるケースもある。また、集団にとけ込めず孤立傾向にある生徒も少なくない。これらは、自分の考えをもち、それを周囲に伝えたり、表現したりするなどのコミュニケーション能力や表現力が十分に身に付いていないことが関係していると思われる。

生徒同士の間関係の深まりをめざすためには、一人ひとりを大切に作る心、自他のよさに気付く力、ともに高め合おうとする連帯意識などを身に付けさせることが必要である。さらに、自己肯定感に裏付けられた表現力を育成することも重要であると考え。また、自己表現の機会を様々な教育活動に位置付けることが、コミュニケーション能力を高めるとともに、人権の大切さに気付く豊かな感性や人権尊重の意識を高めていくことにつながると考え、研究主題を設定した。

### 3 研究推進体制

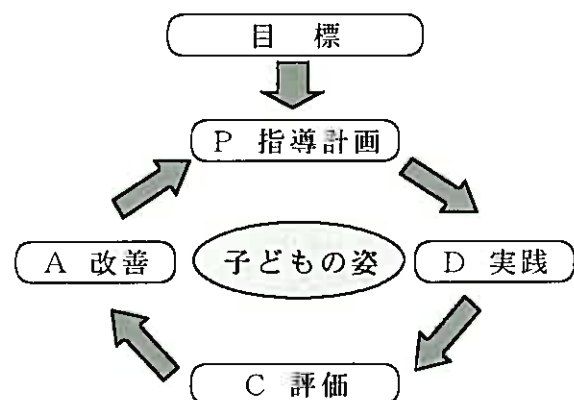
#### (1) 研究組織



#### (2) 研究のスタンス

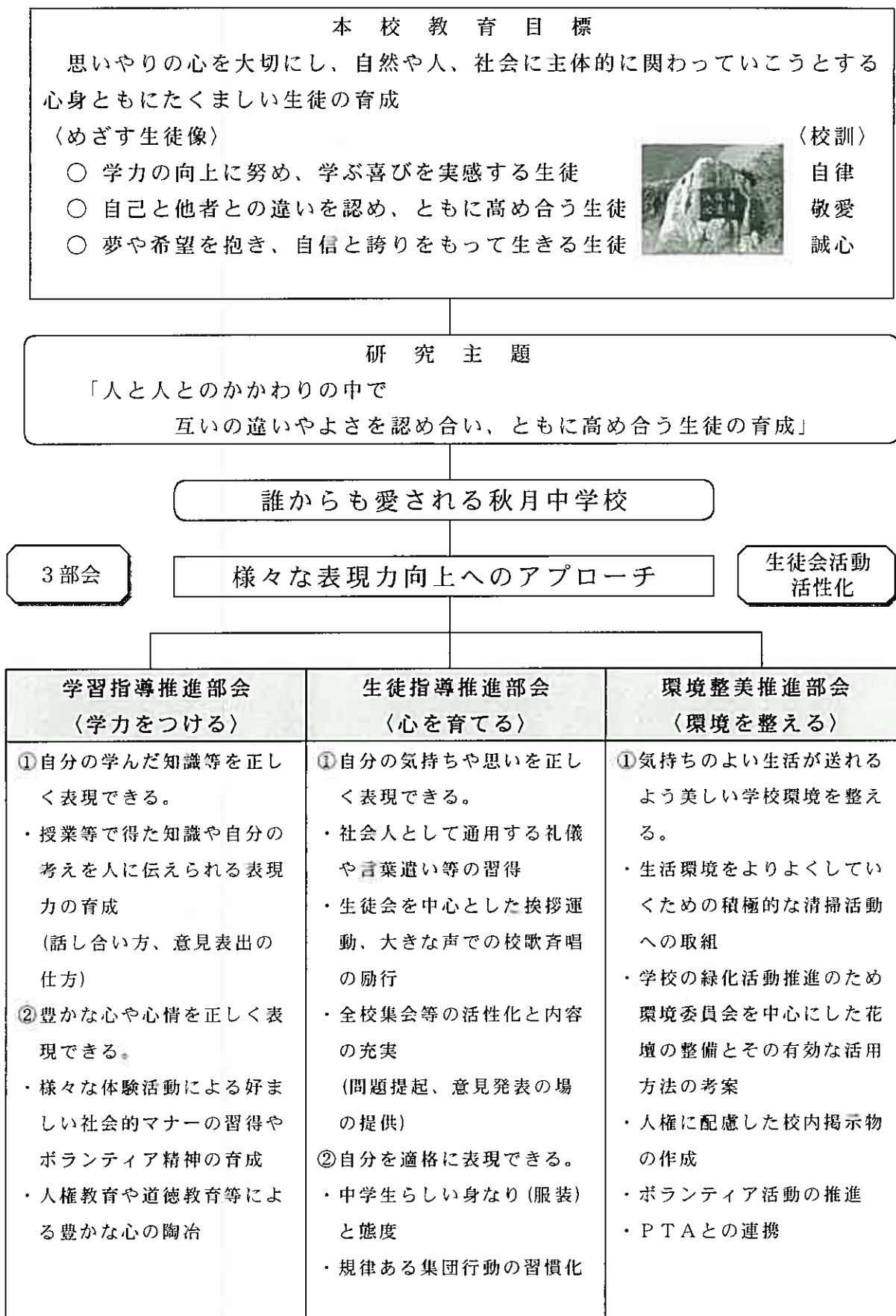
- ① 研究主題を徹底的に追究し、子どもの人権感覚を陶冶する。
- ② 研究のための研究にならないように、子どもの姿で研究成果を確認する。
- ③ 教員サイド・生徒サイドの二方向から研究のアプローチをする。
- ④ 目標に基づくPDCAサイクルで研究を推進する。

研究推進にあたっては、研究のための研究に終わることがないように、常に子どもたちの姿で評価し、課題を見い出して改善に結び付けていく。その際に、現状の把握や共通理解の確認だけでなく、本校の教育目標や研究主題に常に立ち返り、目標に応じた計画を立て、協働実践を行う。評価では学校評価アンケートや諸調査などの客観的な資料を参考にして子どもたちの姿を幅広くとらえ、具体的な改善につなげていく。



PDCAサイクルによる研究推進

(3) 研究の全体概念図



(4) 3 部会による取組

校務分掌をもとに学習指導推進部会、生徒指導推進部会、環境整美推進部会の3部会に分かれ、研修主題に迫るべく取組内容を検討し実践を行い研修を進めた。

部会	取 組 内 容	
学習指導推進部会	<p style="text-align: center;">学力をつける</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>確かな学力と豊かな心の 陶冶を図り、それらを上手 に伝達し、表現する生徒を めざす</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人ひとりを大切にした授業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業の実施</li> <li>・秋月中授業改善システム、シラバスの作成</li> </ul> </li> <li>○表現力を育成するためのプログラム               <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動の充実や小集団学習の活用</li> <li>・スピーチコンテストの実施、人権作文の朗読</li> </ul> </li> <li>○基礎基本の徹底をめざした学習の工夫               <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝授業 (AST) による基礎基本の定着 (ASTとはAkizuki Study Timeの略称)</li> <li>・学習クラスマッチの実施、補充学習の実施</li> </ul> </li> <li>○人権にかかわる授業の充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権尊重の意識を高める講演会の実施</li> <li>・様々な人権課題に対する効果的な指導</li> </ul> </li> </ul>
生徒指導推進部会	<p style="text-align: center;">心を育てる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>中学生にふさわしい礼儀 や態度と思いやりのある言 動が自然にできる生徒をめ ざす</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が互いに認め合い評価し合う活動の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学級の歴史」、1分間スピーチ</li> </ul> </li> <li>○挨拶運動の実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA、ボランティア</li> </ul> </li> <li>○生徒会活動の活性化               <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間テーマと自己決定の場の設定</li> <li>・「秋月中人権宣言」の採択</li> </ul> </li> <li>○人間関係づくりに関する職員研修               <ul style="list-style-type: none"> <li>・AFPY (Adventure Friendship Program in Yamaguchi)</li> <li>・コミュニケーションスキル</li> </ul> </li> </ul>
環境整美推進部会	<p style="text-align: center;">環境を整える</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>校舎内外の環境整備や人 権が尊重される環境づくりに 積極的に取り組む生徒を めざす</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の教育力を活用した教育活動の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のお年寄りとのふれあい体験</li> <li>・地域行事への参加</li> </ul> </li> <li>○清掃活動の充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒ボランティアによる朝清掃</li> <li>・縦割り班による地域の清掃活動</li> </ul> </li> <li>○校内掲示の充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権ポスターの作成</li> <li>・人権コーナーの掲示物による啓発活動</li> </ul> </li> </ul>

#### 4 研究の重点と特色

『人権教育の推進にあたって（改訂版）』（山口県教育委員会）には、学校における取組として、「子どもの発達段階に即し、学校の教育活動を通して人権尊重の意識を高め、一人ひとりを大切にすることを組織的・計画的に推進します。」とあり、以下の6点を推進のポイントとしてあげている。

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| ①推進体制の確立          | ②目標及び計画等の設定    |
| ③人権尊重の視点に立った指導の充実 | ④実践化につながる指導の充実 |
| ⑤人権が尊重される環境づくり    | ⑥研修・研究等の充実     |

これらに基づいて本校の取組を具体化した。特に③④⑤に関する内容については以下のとおりである。

##### (1) 一人ひとりを大切にしたい授業

子どもたち「一人ひとり」をかけがえのない存在として大切にしたい。その個性と可能性を伸ばす教育が重要である。その指導のベースには一人ひとりを大切にしたい授業が展開されなくてはならない。本校では、「一人ひとりを大切にしたい授業」とは、「自己存在感」「共に学び高め合う学習」「確かな学力」の3つを保障する授業であるととらえ、教員間で共通認識をもち、日々の授業を実践している。

##### ○一人ひとりに「自己存在感」を保障する授業

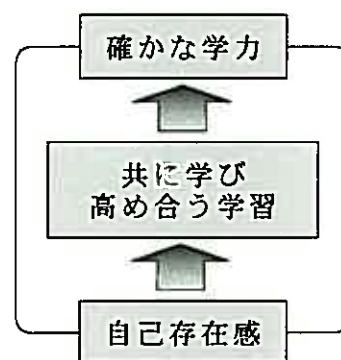
- ・一人ひとりの学ぶ欲求や自己存在感の喚起
- ・一人ひとりの考えの尊重と承認
- ・学ぶ喜びや成就感の体得
- ・関心・意欲の高揚
- ・自己表現力の向上

##### ○一人ひとりに「共に学び高め合う学習」を保障する授業

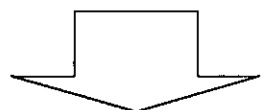
- ・学び合う場の設定
- ・温かい人間関係づくり
- ・支え合い伝え合う協働学習
- ・学習集団の学習意欲を高める指導
- ・学習規律の確立による安心できる学習環境

##### ○一人ひとりに「確かな学力」を保障する授業

- ・基礎基本の充実（反復、補充に重点をおいたきめ細かな指導）
- ・生徒の視点からの授業改善によるわかる授業の実施
- ・個の習熟に応じたきめ細かな指導
- ・応用、発展的な学習への支援



一人ひとりを大切にしたい授業  
(3つの保障の関係図)



このイメージを実現するために次のような具体的方策を考え、授業実践を行った。

- 全教科で学習過程にグループ活動を適切に位置付け、互いの違いやよさを認め合う活動に取り組ませる。
- 単元の目標や評価方法を事前に生徒に伝え、見通しを立てて意欲的に学習できるように工夫する。（シラバスの活用）
- 生徒対象の授業アンケートを分析し、それを基に授業改善をする。
- 授業アドバイザーを招へいし、指導力向上に努める。
- 授業研究を通して、教科・領域を越えて授業のあるべき基本形を共有する。

## (2) 実践化につながる指導の充実

「人権教育推進資料（改訂版）」（山口県教育委員会）には、人権を尊重した行動が日常生活の中で実践できる視点として、①手法の創意工夫、②人と人とのかかわり、③多様な体験活動の機会の充実をあげている。

教科、道徳、特別活動等で学んだ知識や技能等を、いかにして生徒の日常生活に結び付け、実践へとつなげていくかが大きな課題である。その際、重要な指導の視点として、「課題の意識化・具体化」「体験活動の活用」「人と人とのかかわりによる学び」「自己の表現力の向上」「実践する場の設定」を適切に組み合わせ、実践化につながる指導を工夫した。

- 生活の中で経験したことを具体的に取り上げ、自分の課題として考えるなど、人権を学び取る手法に創意工夫をこらしていくことを大切にする。
  - ・総務委員会による自律的活動
  - ・生徒会による生活の指針づくり
  - ・短学活を利用した支持的集団づくり「学級の歴史」
  - ・一分間スピーチによる表現力向上
  - ・全校合唱
  - ・「秋月中人権宣言」の採択
- 人と人とのかかわりを通して学ぶことを大切にする。
  - ・生徒会年間テーマ「共歩」（平成21年度）「信愛」（平成22年度）を意識した全員参加の行事の企画、運営
  - ・講演会、職業講話
  - ・介護ふれあい体験学習
  - ・自己肯定感に関するアンケートをもとにした教育相談
  - ・生徒会企画によるレクリエーション
- 社会教育との連携を図りつつ、社会性や豊かな人間性を育むため、ボランティア活動や自然体験活動などの多様な体験活動の充実を図る。
  - ・宿泊学習（1年）職場体験（2年）校外学習（3年）
  - ・ボランティア活動（地域清掃・ユニセフ募金・プルタブ等収集）の推進
  - ・挨拶運動

### (3) 人権が尊重される環境づくり

「人が環境をつくり、環境は人をつくる」と言われている。人権が尊重される環境とは、美しく整った教育環境であるだけでなく、生徒一人ひとりの人格や意見や考えが保障され、集団の中に自己の存在感や居場所を認め合う温かい集団でもある。

『人権教育推進資料（改訂版）』（山口県教育委員会）には、①安心して、楽しく学ぶことのできる環境、②個性、心情、意見等を大切にすることをあげており、本校では具体的に下記の内容に取り組んだ。

#### ○安心して楽しく学ぶことのできる環境を確保する。

～美しい学校づくり～

- ・ 環境委員会による朝清掃
- ・ ボランティア生徒による地域の朝清掃
- ・ 全校縦割り班による地域の清掃活動
- ・ P T Aによる除草作業
- ・ 環境委員会、ボランティアによる花壇整備
- ・ 教員による毎月の安全点検

#### ○集団の中で一人ひとりが存在感を感じることが できる心の居場所としての集団づくりに努める。

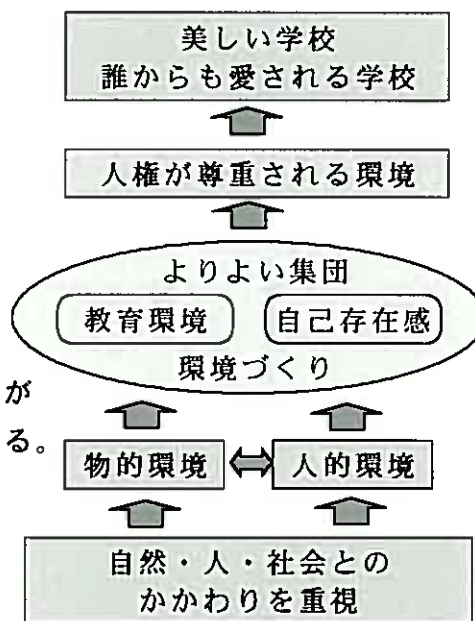
～活力のある生徒集団づくり～

- ・ 生徒会活動の活性化
- ・ 生徒会企画の実践
- ・ 学校への所属感を高める学校行事
- ・ 縦割り班による活動
- ・ 人間関係づくり、AFPY
- ・ 学級の班活動
- ・ 小学習集団の編成と活用

#### ○生徒の個性を尊重し、生徒の心理の理解に努めるとともに、生徒の意見等を大切に する教育の環境づくりに努める。

～個性、心情、意見を大切に学習環境の整備～

- ・ 教室、廊下の掲示活動
- ・ 行事、授業での取組の写真掲示
- ・ 各学年行事に関する掲示
- ・ 道徳、学級活動での感想フィードバック掲示
- ・ 効果的な学習法の例
- ・ 「学級の歴史」の掲示
- ・ 人権に関する生徒作品（標語、作文、ポスター）掲示
- ・ 「秋月中人権宣言」



よりよい集団・環境づくりの関係図

#### (4) 地域等との連携を図る教育活動の充実

開かれた学校、信頼される学校が求められているが、子どもたちの教育は学校だけで完結できるものではない。学校、家庭、地域が連携を図り、一体となって教育を推進していくことが大切である。地域には、様々な教材があり、人材があり、人とのつながりがある。そのよさを教育活動に取り入れ、地域に根ざした教育を充実させる。

- ① 地域や家庭の大人とのふれ合いの機会から、地域を身近に感じ、地域を愛する心を育む。
- ② 地域から大切にされ、見守られていると感じることから感謝する心と自己有用感をもたせる。
- ③ 9か年の義務教育において、秋月小・中学校の教育に一貫性をもたせ、人間性豊かな子どもの育成を連携して行う。

- ④ 保護者への啓発を行い、学校との連携を深め、学校教育への支援を高める。

具体的な取組として、以下のような取組がある。

##### ○ 小学校との交流

- ・ 秋月小学校での出前授業
- ・ 研究授業を通しての情報交換と研修
- ・ 生徒会執行部による学校紹介
- ・ 生徒指導の情報交換

##### ○ 地域との交流

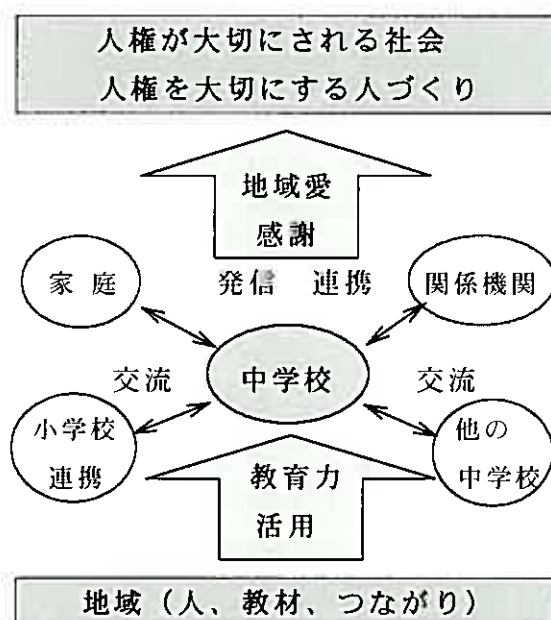
- ・ 職場体験学習
- ・ 地域の高齢者とのグラウンドゴルフ大会
- ・ 敬老会、夏祭りの運営ボランティア
- ・ 生徒会ボランティア活動
- ・ 地域行事への参加

##### ○ 市内の他中学校との交流

- ・ 翔北中学校、鼓南中学校との交流学习

##### ○ 情報発信

- ・ 学校だより、学年だより
- ・ 秋月中Webページ



地域等との連携を図る教育活動の充実



## 5 生徒・学校の変容

### (1) 全体的な生徒の変容

現在、本校では落ち着いた状況の中で、教育活動が行われている。チャイムが鳴らなくても生徒たちは時計を見て自律的に行動するようになった。教室移動の際は総務委員の指示で整然と並んで移動し、授業開始は学習委員の合図で黙想するなど、生徒主導で非常に落ち着いて授業が始められる状況にある。授業においても、互いを信頼して自由に自分の考えが述べられる雰囲気の中、小集団や学級全体での話し合い活動が活発に行われている。また、朝の会や終わりの会も、教員がいなくても自主的に進められている。授業だけでなく学校生活すべてにおいて、生徒同士がコミュニケーションをとる機会を多くもったことで、互いの理解が深まり、性別や学年を問わず仲良くできる生徒が多くなった。また、授業での自己存在感を感じ取れるような取組の工夫や、学級での互いのよさを認め合う活動によって、人に感謝したり人の役に立つことを進んで行ったりする生徒が増えた。教員に対しても「私がやりましょうか」と声をかける生徒が多い。

指定校としての2年間の取組を通して、生徒は人権に関する様々な知識を得るとともに、互いの人権を大切にしようとする意識が高まった。生徒自身の心の中に人権教育に一生懸命取り組んでいるという誇りが育っているのを感じる。

### (2) データから見た生徒の変容

#### ① 平成22年度全国学力・学習状況調査と統一項目によるアンケート結果から

	質問項目	本校平均	全国平均
①	自分には、よいところがあると思いますか。	70.3%	63.1%
②	将来の夢や希望を持っていますか。	74.9%	71.7%
③	学校で友達に会うのは楽しいと思いますか。	97.1%	95.0%
④	学校の規則を守っていますか。	91.8%	90.1%
⑤	人が困っているときはすすんで助けていますか。	74.0%	74.3%
⑥	近所の人に会ったときはあいさつをしていますか。	90.2%	83.9%
⑦	人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか。	95.0%	92.7%
⑧	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。	98.4%	91.1%
⑨	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	95.9%	92.1%
⑩	普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。	86.0%	73.3%
⑪	普段の授業では生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。	79.8%	55.3%

※表中の数字は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合計したプラス評価

上記の表は、全国学力・学習状況調査にあるいくつかの質問項目について、22年11月に全校生徒（245名）を対象にアンケートをとり、その平均を全国平均と比べたものである。人権教育の推進に力を入れ、生徒同士がかかわる機会を多く設定するなど、様々な実践を試みた一つの成果として、他者と積極的にかかわり互いを大切にしようとする姿勢や態度が多く見受けられるようになった。いじめは許されないと答えた生徒の割合が全国平均に比べて7%上回った。また、生徒の心の中に人権教育に取り組んでいるという自負心が育ってきており、日ごろの言動や作文の中に「人権について学んでいるから」という言葉が多く見られるようになってきた。

## ② 学校評価アンケート（保護者対象）結果から

	秋月中生徒及び自分の子どもについて	H21.7	H22.7
①	秋月中生徒は全体的に他人に対して思いやりのある言動をとっていると思いますか。	54%	62%
②	秋月中生徒は全体的に学校行事や諸活動において表現力豊かに生き生きと活動していると思いますか。	62%	74%
③	お子さんは学校に行くのを楽しみにしていると思いますか。	81%	82%
④	お子さんは授業に一生懸命取り組んでいると思いますか。	70%	80%
⑤	お子さんに友達のよさを認め合いともに高まろうという態度が身に付いていると思いますか。	72%	76%

※表中の数字は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合計したプラス評価

上記の表は、保護者を対象とした20項目からなる学校評価アンケートの中から秋月中生徒と自分の子どもに対する評価項目を抜粋したものである。これは、全学年を対象とした調査であり、21年度と22年度では3分の1の生徒が入れ替わっているが、授業規律の定着、コミュニケーション能力の育成、生徒同士がかかわり合う場面の設定など、様々な取組が成果となって表れており、数値の上でも保護者の評価が高くなっていることがわかる。

### (3) 生徒指導面での生徒の変容

以前と比較していじめの認知件数は、数値上も状況は改善されてきている。いじめをテーマとした講演会や道徳の授業とともに、いじめアンケートの実施など、いじめの早期発見に努め、教育相談体制を充実させていることが効果的に働いている。また、休み時間等での生徒同士のかかわり、表情などを見ると、生徒たちは以前に比べ、一緒に協力して活動を進めていくことが多く見られるようになった。ほとんどの教員が昼休みに教室等に残り、生徒とかかわるようにすることで、休み時間の生徒の動きが観察できる状況にある。さらに、生徒と教員との信頼関係が築かれており、生徒の人権意識も高まっているので、いじめについてはすぐに教員に知らせ、「隠している」「黙っている」というケースは少ない。

21年度、22年度ともに、人間関係のもつれから登校が困難になった生徒はいない。また、不登校傾向及び保健室登校の状況にある生徒は大幅に減少し、現在は該当する生徒はいない。2年次まで教室に入らず問題行動を繰り返していた生徒が、3年次からはすべての活動に参加しているという例もある。様々な取組により授業規律が確立し、安心できる学校生活の中で人間関係の改善が図られたことが大きな要因である。

### (4) 保健室の利用状況等からみた生徒の変容

保健室を利用した生徒の数は、数値的に大幅に減少しており、けがや病気の処置以外の目的での保健室への来室も減少している。それは、学年や学級内での人間関係が良好になり、居心地がよくなったことが大きな要因と言える。また、けがや病気の処置が目的で来室した生徒の数も、新型インフルエンザが流行した21年度を除くと減っている。これは、以前と比べ生徒が落ち着いて生活が送れるようになり、不注意によるけがが減ったことや、保健委員会を中心に朝食や睡眠時間について健康に関する啓発活動を行った成果と考えられる。

また、遅刻・早退の数も減少し、定時（8時10分）にはほぼ全員が朝学習に取り組んでいる。不登校傾向にある生徒の来室は21年度に比べ増加したが、全職員が一人ひとりの生徒の状況についての情報を共有し、対応や支援の仕方を協議し、相談活動や支援活動を続けることにより、心身の健康を回復し、22年度11月末現在では、通常の学校生活を送ることができている。

## 6 教職員の変容

### (1) 学校評価アンケート（教職員の自己評価）結果から

	自己評価項目	H21.7	H22.7
①	一人ひとりの生徒を大切にした授業がなされているか。	80.0%	93.8%
②	生徒の基礎学力を定着させるための指導がなされているか。	80.0%	83.3%
③	生徒同士の連帯意識を高め、人権意識を高揚させる教育が計画的に行われているか。	71.4%	100%
④	生徒一人ひとりを大切にし、人権を尊重した指導がされているか。	86.7%	100%

※表中の数字は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合計したプラス評価

#### ① 意識の変容

2年間の指定を受け研究を推進していく中で、教職員の意識も変容してきた。職員室で人権に関する話題を口にするのが多くなり、生徒の良い面を認めようという意識が高まった。また、自分たちの教育活動の一つひとつを人権と結び付けて考えるようになった。

#### ② コミュニケーションの深まり

研究主題に向けて、計画的に研修を進めていく中で、互いのコミュニケーションが深まり、情報交換も盛んに行われるようになってきた。その結果、生徒や自分たちの発言に敏感になり、今まで気付かなかったものに気付くようになってきた。また、全校体制で生徒の指導が行われるようになった。

#### ③ 協働体制の強化

教職員が研究主題に向けて協働実践していく中で、互いの意思の疎通が図れるようになり、それぞれが自分の得意分野を生かしながら研究主題に迫る取組ができた。それはまさに、「人と人とのかかわりの中で、互いの違いやよさを認め合い、ともに高め合う」教職員集団であった。

### (2) 学校評価アンケート（保護者対象）結果から

	学校の全般的な取組及び教職員の取組について	H21.7	H22.7
①	美しい秋月中づくりの成果は上がっていると思いますか。	82%	85%
②	「信頼される秋月中」についての取り組みの成果は上がっていると思いますか。	60%	73%
③	教職員は生徒の学力を向上させるために「わかる授業」を実践し、学力を定着させる指導を行っていると思いますか。	55%	65%

※表中の数字は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合計したプラス評価

保護者対象の学校評価アンケートの結果からも、教職員の取組が成果として保護者に認識されていることが分かる。その他にも、学校の全般的な取組や教職員の取組に

関するほとんどの項目で、プラス評価の数値が上がっている。自由記述の欄にも「問題があった時に、先生方が一生懸命対応を考えておられる姿に安心した」「色々と細やかな配慮をされ、親にとって、とてもありがたいです」などの記入があり、保護者の学校や教職員に対する信頼が高まりつつあることがうかがえる。

## 7 今後の課題

研究の成果を踏まえた今後の課題としては、変容しつつある生徒や教職員の意識をより一層高めていくことにある。そのためにも、次のような視点からの取組に重点を置いて、継続的に研究実践を行っていく。

### (1) 小中連携の強化

人権尊重の意識を高めていくためには、発達段階に応じた継続的、系統的な取組が求められる。研修会や授業を通じて、教職員間の交流だけでなく児童生徒間の交流もさらに深め、小学校と中学校の連携を強化するような環境をつくっていく。

### (2) 地域との連携・地域の教育力の活用

これまで職場体験や地域の高齢者とのふれあい活動などを通して、地域との交流を進めてきたが、まだ十分とは言えない。今後さらに学校評議員や地域の方の意見を取り入れ、地域との連携を図りながら人権教育を推進していく。

### (3) 保護者との連携

保護者対象の学校評価アンケートの結果を見ると、わかる授業や進路指導の適切さの数値がまだ低い。学校での様々な取組を積極的に保護者に伝えていき、保護者との具体的な連携の方策について研究していく。

### (4) 教職員の研修意欲の向上と実践

「自分を大切にするとともに、人も大切にする」という基本的な考え方に沿って、授業、特別活動、部活動など学校生活全般にわたって、これまで継続的に実践してきたことの意味や価値を見直し、必要に応じて変更したり、ねらいや具体的な取組の深化を図ったりしながら計画的に取り組んでいく。これらのことを踏まえ、教職員の研修意欲をさらに高めていくとともに、中・長期的な展望をしっかりと持ち、総合的に研修を進めていく。